

## 第2回総合教育会議 議事録

1 日 時 平成27年8月27日(木)  
開会 午前10時30分  
閉会 午前11時16分

2 場 所 県庁16階 教育委員会室

3 出席者 知 事 伊藤 祐一郎  
教育長 古川 仲二  
教育委員 島津 公保  
教育委員 山本 英司  
教育委員 大富 あき子  
教育委員 玉川 恵  
教育委員 今村 英仁

### 4 協議・調整事項及び議事の概要

#### (1) 協議・調整事項

- ア 大綱の策定について(大綱素案の協議)
- イ その他(平成27年度全国学力・学習状況調査結果)

#### (2) 議事の概要

- ア 大綱の策定について(大綱素案の協議)

##### 教育委員

- ・ 基本的には教育委員会の教育振興基本計画をベースとするということであり、方向性としてはよいだろう。
- ・ 基本目標(案)について、「鹿児島県の教育」というタイトルがついているものが結構あるが、「教育」という言葉を使うと「堅い」というのと、また、知事が定める大綱としてはその範囲が「狭い」という印象がある。「人づくり」とか「人を育てる」とした方が、堅さが取れて、より範囲の広い形の大綱として捉えることができるのではないかと。
- ・ 我が国が人口減少社会と高齢社会に入っている中で、国際化といった面では、海外とのつながりを重視した仕組みを考えなければならぬ

い。鹿児島は南からいろんなものを取り入れて、それを自分なりのものに作り上げて、創造してきたという長い歴史を持っているという風土があり、そこをしっかりとらえた上で。

- ・ もう一つは、地域で、人を、子どもを育てるという本県の良い伝統を踏まえた上で、郷土に誇りを持って人づくりをするということをお考えいただきたい。
- ・ 切りひらくのは近い「将来」ではなく「未来」とした方がよいのでは。また、これからの社会、簡単に扉を開くような社会ではないので、固い岩盤を切り拓くという意識が必要。そういう意味では、未来を切り拓くという「拓く」、そういう言葉を使った方がいいのかなと。それから、「鹿児島」と「人づくり」を分けて、「未来を切り拓く鹿児島の人づくり」とした方が、個人的にはすっきりする。

#### 教育委員

- ・ 本県教育の取組における視点や、教育施策の方向性は、県の教育振興基本計画を踏襲しており異存はない。ただ、教育目標のところでは、鹿児島県の大綱として出す訳であり、人づくり、未来づくりではないのかなと思う。
- ・ これまで鹿児島県というのは、教育県だとか、人材輩出県とか言われてきたが、今、その面影が、少しその勢いがなくなりつつあるのではないかと思う。
- ・ もともと、鹿児島県には地域の伝統文化や風土、教育素材など、教育の土台がしっかりと残っているので、これを機会にして、学校、家庭、地域、企業などが連携して教育に取り組む気運が高まって、以前のような勢いが出てくればいいと思う。
- ・ 人材の輩出については、グローバル社会なので各人が能力を発揮して、世界に大きく羽ばたくような人材が多く出てくることを期待している。

## 教育委員

- ・ 「人づくり」という方が、「教育」というより分かりやすい。また、漢字だけが並んでいるより、ひらがなのある方がなじみやすい。
- ・ キーワードでいうと「命を大切にする」、「郷土の理解を深める」、「家庭教育を充実させる」などが鹿児島県の教育の特色かなと思う。
- ・ 本県の教育の特色は、学級の児童数が少ないとか、へき地が多い、複式学級が多いこと。そういう点では、一人一人に目が届いているということだと思う。いじめの件数が3万件あったが、それもほぼ100%近く解決していることで、些細なことでも一人一人に目が届いていることが鹿児島県の教育の特色ではないか。
- ・ 県外に就職する率が高い。やはり、もっともっと郷土を理解してもらって、その上で県外に行くなら県外で活躍してもらおうし、鹿児島にいても更に活躍してもらいたい。
- ・ さつま町が家庭の日の発祥の地で、家庭教育も、地域も含めて一人一人を大事にしているという特色がある。
- ・ キーワードの命、郷土、家庭教育というの、みんなが一人を見ていくということ。未来の鹿児島の人づくりということで、「未来を切り拓く鹿児島の人づくり」というのがいいかなと思う。

## 教育委員

- ・ 基本方針を読ませていただいて、特に全体的に異論はない。「基本目標」についても広く県民に理解していただいて、キーワードが心に残るというか覚えていただくようなものにするため、「鹿児島県の教育」という見出しよりも、鹿児島県の皆さんに発信することなので、鹿児島県の特徴を表現するような言葉を使ったらどうかと思う。
- ・ 具体的には、鹿児島県の郷土愛を刺激するような、地域を愛する心を育てる、育むというようなものがよいのではないか。
- ・ 「教育」という言葉を使うと、学校教育とイメージされてしまいがちで、関係ないと思う県民もいると思う。やはり生涯教育、ずっと学

び続けるという、家庭教育という点でも、大人になってからもいろんなことを学び続けなければならないという認識を持ってもらうための言葉を選んだらどうかと思う。

- ・ これから人口減少社会が進展し、鹿児島は高齢化が進んでいく中で、それでも地域の特性として、例えば離島など子育てという点では、非常に環境の整ったふるさとなので、そういう特性を生かして将来を担う人材を育てるといったことを言葉で表現できたらなと。
- ・ 目標に掲げる言葉は、どうしても抽象的な言葉になりがちだが、それでも、心に残る言葉をもう少し抽出していただけたらと思う。

### 教育委員

- ・ 鹿児島県は教育県で、大変教育が充実していた結果、どちらかというとグローバルに活躍される人材がたくさん輩出されて、その人たちが鹿児島県から外に出てたくさん活躍されている。それは大変すばらしいことだが、結果として鹿児島県に残ってくださる方、もしくは地元を愛して、地元を育む人材という部分が少し薄くなっているのかなという感じがする。
- ・ 両方やはり必要なのかなというところからすると、グローバルに活躍できる人材と、地元を愛して育てていく人材とを包括して、両方が育っていくような人づくりが大事だと思うので、そのような大綱がいかなと思う。
- ・ 少し地元で活躍する人材も大事だと、そういうところも入れていただかないと、県外で活躍する方が優れているというようになってしまうと、ちょっと悲しい。そういうことを感じながら「基本目標」を考えていけたらなと思う。

### 教育長

- ・ 素案については、県教育振興基本計画を基本として、本県教育の取組における視点及び施策の方向性について、学術、文化、スポーツも含めて基本方針（案）としてまとめていただいていると考えている。

- ・ また、その基本方針を踏まえた上での大綱の「基本目標」については、県民に分かりやすく、覚えやすく、また、学ぼうとする意欲が高まるような目標になっていくのではないかと期待している。
- ・ 今後、大綱に沿った教育行政を推進するに当たっては、教育委員会としても、従来の教育委員会所管の施策・事業だけでなく、児童福祉や青少年健全育成をはじめとした、広く学術、文化等に関する施策も含め、関係の所管部局等とも意見交換あるいは情報共有等を深めながら、相互に連携・協力を図るよう努めていきたいと思う。

## 知事

- ・ この「基本目標」は、「未来」、「将来」だけでなく、まず、現在をどうするか。「未来」に偏りすぎたのではないのかなと感じる。  
確かに「鹿児島の人づくり」の方が柔らかいし、広くは未来を開く、人づくりだが、その中にいろんな内容があるので、それを、パラフレーズする形でまとめるのかなという感じがしている。  
我々も「教育県鹿児島」として育ってきた。長野県と並んで。ところが戦後以降、鹿児島がいつ教育県だったのかデータを調べても全く何も出てこない。学力テストは、昔の方が悪かった。
- ・ 社会教育は優れている。だから、昔の郷中教育とか明治時代に偉人を輩出したとかあって、「教育県鹿児島」という錯覚の下に動いていたのだと私は思う。
- ・ 昔から、大学進学率が低いのは貧しいから。  
全国で鹿児島県人会が盛んなのは、鹿児島に居たかったのに、外に行かないといけない人たちがいたから。鹿児島が嫌で外に行った人達は、そんなに熱くならない。鹿児島の県人会はどこも人があふれる。  
いかに鹿児島の経済力が弱くて、あまり勉強をする資力もないままに外に出したというのが、実は鹿児島の教育の原点だと思う。
- ・ それを「教育県鹿児島」といってパラフレーズして、ごまかしたのは非常に大きな問題だったと私自身は思う。  
今の私の基本的な考え方の中に事実を探ると、「教育県というのは本当にあったのかね」というのがまず一つの反省としてある。

- ・ それから、もう一つは、まさに、人づくり。人づくりのためには、まず、個性を充実させること。

きちっと自由に基づいて、自由に動いて、自由主義の下にきちっと働ける人間を持つこと。そうすると、当然にいろんなことに座標軸はしっかりとしないといけないから、自分の基本的な姿とか考えとか、きちっと身の回りに育つ。
- ・ 併せて、社会の中の一人としての他人に対する思いやり、難しく言ったら「愛」とか何とかとそういう言葉になるかもしれないが、そういう資質を持った子どもたちをまず育てないと。

将来とか何とか言ってたって始まらないというのが今の私の認識。
- ・ そして、きちっとした個性を持たして、どんな自由社会においても自分で判断できて、時間軸、空間軸、私がいつも言うところの体系の中で物事を判断できて、「自分が何だ」と聞かれたときに、「私はこういう人間です」と言われるような人間を作り上げれば、私はその人は、鹿児島においても、世界に出て行っても十分に働けるのかな、活躍できるのかなと思っている。
- ・ 今言ったような形で、パラフレーズしていくのか、それともこの文言で整理するのか、これからどちらがいいのか、皆さん方の御意見を。

この中にどういう形で言葉を、気持ちを込めるかというときの難しさが、ここの「基本目標」に出てくる。
- ・ 私の体系として作るとなると、個人とか個性とか、人格とか、自立とか、物を考えるときの空間軸とか、時間軸とかが前面に出て来ざるを得ないと思う。

それをやると、他とは違う大綱ができあがると思う。

これから十年、三十年、百年を考えたときの、もう一回鹿児島、本来的な郷中教育をやり、明治維新の人材を輩出したような風土造りをするための本当のステップにしようとする、「もう少し全体考えた方がいい」というのが今の時点の私の考え方であるが、それにこだわるつもりはない。

従来どおりの教育委員会のベースで、こういう形で作っても。

タイトルは、「未来を拓く鹿児島の人づくり」。それは間違いないと思う。

それでは、「未来を拓く鹿児島の人づくり」のためにいったい何を教えればいいのか。何が必要なのか。

一人一人の子どもたちを考えたときに、何をやらなきゃいけないかなというのが、我々のこれからの務めじゃないかと思う。

### 教育委員

- ・ これは知事、首長が作られる大綱なので、知事の考えが入るべきと思う。

人づくりのベースとなる基本は押さえておいていただいた方が良い。

それを実現させるために教育委員会の中に、それぞれの個別の内容があるということだと思う。

でもやはり、現場を踏まえた中での教育というのは、結構あるのかなと思う。地道な努力をされてきたという所もあると思う。

今回は大綱なので、その方向付けを作ることが、現場の方針、取組にとって重要なことでもある。

### 知事

- ・ 一方で高い大きな理念というものがあり、人づくりというところが一番重要な点。一方で、現場の先生にとっては、言うことを聞かない子どもたちをちゃんと育てなければいけない。そのギャップが相当あるだろう。

- ・ 次までに教育委員会も方向性というものを考えていただければ、考えやすい。

肉付けの部分はどうするのか、「基本目標」のさらに上にある理念みたいなものをどこまで追求するのか。

そもそもどういう人間じゃなきゃいけないのか、どういう鹿児島県人を作りたいのか、どういう人を作りたいのかというのがない。

そういうことを踏まえて、次もまた協議させていただきたい。

## イ その他（平成 27 年度全国学力・学習状況調査結果）

### 知事

- ・ 小学校はいいが、中学校になったら成績が落ちるのはどうしてか。

### 教育委員会事務局

- ・ 中学校の場合、知識注入型の授業になっており、それをいかに子供達の考えを引き出すような双方向型の授業に変えていくのかということが課題。また、教科ごとの教員の横のつながりが、やや希薄になっていることも課題というふうに思っている。

### 知事

- ・ 中学校で、子供の考え方を引き出すような授業をする時間はないと思う。中学校のうちは、知識伝達。試験は全部知識の試験。  
そのような中で、子供の考え方を引き出したら成績が伸びるとい  
うのはどういうことなのか。

### 教育委員会事務局

- ・ 新たな課題に対応するためには、知識を使ってさらにそれを活用して、応用していくという力が必要。

### 知事

- ・ 考え方を引き出すというより応用がだめだということであり、応用がだめだということは、基礎がないから応用がだめだということ。  
きちっとした基礎があれば、それを組み立てられるが、基礎をしっかりと覚えていないと応用ができない。そこら辺り専門家の皆さんがしっかりと研究していただきたい。  
いかに「教育県鹿児島」と言っても、いつも成績は下の方。  
専門の職員が配置してあるから、そこはしっかりと。  
急激に成績が上がった沖縄県。そういうのを見習って、本格的に腰を据えてやっていただきたい。  
案外難しいとも思うが、そこはしっかりやらないと。

### 教育委員

- ・ 学力調査は、知識詰め込み型でやれば、この点数は上がるのかなと思う。



- ・ 例えば将来、農業をするとか、水産業をするとかの場合、今の農業、水産業にしても非常に高度化しているので、決して基本、基礎学力が無くてもできる時代ではないと思う。
- ・ 県として、せめて平均点を取るべきなのか、あくまでもトップクラスを目指すべきなのか。何を目標として鹿児島県としては見ていくのかというところが若干定まっていない様な気がする。  
そういったところで知事としてはどういったところを目指すのか。

### 知事

- ・ まず、小中学校は基礎的な知識の応用、基礎的な知識の習得なので、一般的に学力調査等で一定の成績を修めてほしい。
- ・ 高等学校になると、いろんな人生の問題、いろんな人生の分野があるので、そこは、もう少し均一的な教育の仕組みを変えた方が良いのかなという気もしている。「サイン・コサイン・タンジェントはいらない」と従来から言っている。  
「社会に出て、サイン・コサイン・タンジェントを使ったことがあるか」と聞いたら、十分の九は「使ったことありません」とおっしゃる。  
高校教育で、サイン・コサイン・タンジェントを教えて何になるのかなと。  
それよりも、もう少し社会の事象とか、植物の花とか、草の名前とか覚えさせた方が、教えた方がいいのかなというのがある。  
どのステージで何を教えるのかなというのが難しくなってるというのが一つ。
- ・ もう一つは、さはさりながら、小学校ぐらいまでの基礎的な知識というのは、何をやるにしろ絶対に必要。農業で働くにしろ、郷土で働くにしろ、しっかりと勉強してほしいと思う。小中学校の、例えば社会科の歴史、きちんと頭の中に入れれば、人生は他に勉強しなくていいぐらいに本は充実している。  
どの分野に進むにしろ、そのレベルまでは皆さん方到達してほしい。  
そこから後は人生自由だから、というのがまず基本だと思う。

- ・ 学力調査をやるのだから、いつも30数番ではなくて、もう少し上がってもいいのかなと思う。  
秋田とか福井とか、上の方に並べとは言わないが、もう少し上げる努力をしてほしい。  
基礎学力が無いと上に積み上がっていかない。どの学問をやるにしろ。  
子どもの頃の思考というのは、全体のベースになるので。そういう意味で、もう少し努力していただければと思う。
- ・ この次の段階で、「明日を拓く人づくり」、その人づくりの段階で、どういう人をつくるかで関連するので、皆さんからの御意見は次の機会にいただきたい。